

## 議事 1 令和元年度「男女共同参画の日」の事業について

1 日 時 令和元年 11 月 10 日（日） 13：15 から 15：45 まで

2 場 所 総合保健福祉センター 1階 多目的ホール

### 3 内 容

#### (1) 「男女共同参画に関する川柳」及び「イクメン・カジメンの写真」コンテスト 表彰式（13：20～13：50）

- ① 内 容 「川柳」及び「写真」の応募作品について厳正な選考を行い、入賞作品の表彰を行った。
- ② 応募数 1) 川柳 584 人の 1,033 句  
2) 写真 30 点
- ③ 入賞者 1) 川柳（20 名）
  - ・小学生の部（最優秀 1・優秀 2・佳作 2・審査員特別 1・学校 2）
  - ・中学生の部（最優秀 1・優秀 1・佳作 1・審査員特別 1）
  - ・高校生以上の部（最優秀 1・優秀 2・佳作 1・審査員特別 2・学校 2）2) 写真（4 名）
  - ・最優秀、優秀、佳作、審査員特別 各 1

#### (2) 講演会（14：00～15：45）

- ① 講 師 東京大学教授 瀬地山 角（せちやま かく）氏
- ② 演 題 「笑って考えよう 仕事のこと 家庭のこと 未来のこと  
～男の家事が社会を救う！～」
- ③ 内 容 日本テレビ「世界一受けたい授業」で東大人気講義 No.1 に選ばれた講師が、自身の体験談や映像を交えながら、男の家事や育児、これからの時代の家族・仕事のあり方等について熱心に語られた。
- ④ 参加者 95 人（事前申込者数 139 人）
- ⑤ その他
  - ・子連れでの参加が可能だったため、家族一緒に聴講する姿が見られた。
  - ・講師独特の表現で笑いをとりながら、和やかな雰囲気が進み、参加者のアンケート結果も満足度の高いものとなった。
  - ・台風の後で、公的行事や県議選と日程が重なったこともあってか、当日の参加者数が低下した。

## 【アンケート結果】

### 【男性】

- ・心に残る講演。子育てや家庭に対する考え方が変わった。「笑って考える」の言葉を忘れずにしたい。
- ・イクメンが早く死語になるとよいと思う。
- ・現在子育ても終え、30年前に共働きの見方（夫の家事に時給）が解っていれば生活も変わったかなと思う。
- ・やはり男性の意識だが、今回のように理論的な話はためになる。
- ・朝早くから日付が変わる頃まで働き休みもない。今後結婚を考えていることもあり、自分の時間を作り、家事・育児に限らず、共に協力していこうと思った。
- ・とても参考になった。
- ・先生の考え方が広く世間に認知されるよう、無理なさらぬ程度に頑張っていたいただきたい。
- ・講演会に子連れOK、子どもが騒いでもOKという姿勢は素晴らしいと思った。今の時代のテーマとしてとても合っている。
- ・高齢者の共同参画はどうか。
- ・今の社会は男性への育児、育休に対して認識があまりない。講演を聴いて、世の中の男性が育児に対する意識 や考え方にもっと着目してもよいと思った。
- ・大変勉強になった。楽しく学ばせていただいた。是非パートⅡとして先生の話が聴きたい。
- ・妻が働き続けていくことが家族に必要であると改めて気づかされた。妻がまた働けるよう自分の家事を少しずつ増やしていきたい。

### 【女性】

- ・高校生の私にもおもしろかった!将来結婚した時男女協力する術を知ることができた。
- ・男女共同参画という言葉は学校の授業でしか聞いたことがないが、すごく自分たちにとって大きな問題であることがわかった。女性と男性の差別のない社会がつけられるよう、もっと一人ひとりがこのテーマについて考え、知らなければならぬと思った。
- ・大変興味深い内容だった。
- ・先生が東大の保育所の運営に関わられていること、子どもに料理を自然とやらせるような生活をされていることだが、家庭でどのような夫婦生活なのかもっと知りたかった。
- ・心のどこかで女である私がやらないと思ったり、女だからという自分の考えを改め助け合う気持ちになるいい機会になった。
- ・このような講演は夫婦で来るのがよいと思う。
- ・私は共働きで70代の今も二人とも働いている。孫の世話は頼まれた時だけという先生の言葉に大賛成。
- ・習い事や部活をお母さんがやっているのが当たり前の光景だが、子どもと触れ合う時期はあっという間に終わるのでお父さんにももっと子育てに関われるようになってほしい。楽しくわかりやすい話だった。

- ・とても面白おかしく、興味のある講演だった。海外には「イクメン」という言葉がないこと、イクメンと盛り上がっている今の社会がおかしいという言葉が心に残った。
- ・関西弁がとても面白く寝るタイミングが少しもなかった。とても参考になる話で子どもたちに資料を見せて考えさせようと思う。
- ・大人が家事、育児を協力していることを子どもたちが見ていれば、自然と身についていくと感ずることができた。
- ・男性が家事をするという意識改革は社会全体(特に会社)に普及されるのが必要。残業については、政府の仕事改革はどうなっているのか疑問に思ふ。残業の違法行為は巷に溢れている。身近なところからどんなことができるか考えてしまった。
- ・社会を良くしていく方法って色々あるのだと思った。一人ひとりの意識が大切と思った。
- ・とても貴重なお話をもっと多くの人たちに聴いてほしかった。「ぞうの背中」に涙が出た。
- ・共働きをする=共働きを成立させるにも、協力することがもっと必要。先生のような考え方の男性がもっと増えるとよい。
- ・これから働きながら出産、子育てをすることに不安を感じていたが、夫と一緒に働いて子育てすることが楽しみになった。二人でもう一度話合いたい。
- ・まだ中学生の子どもに今日の話をしてあげたい。この知識を今から知っておけば将来きっと役に立つことを願いたい。
- ・夫が忙しいことはわかっているが、子育て家事すべてをやっていることに納得できず過ごしてきたが、講演を聴いて何に納得していなかったのか、今後どうするのがよいか考えるきっかけになり、すっきりした。素晴らし話を聴けてよかった。
- ・この講演を機にまずいわきから男性の育児参加を強化してみてもどうか。若い世代が多く住める「市」にしてはどうか。
- ・深い優しさを感じつつ、楽しいコトバで聴くことができた。「いのちの授業」の様にも感じた。
- ・若い世代(特に男性)に聴いてほしい内容の講演だった。
- ・男女共同について更に興味が深化した。勉強になった。
- ・男女共同参画については、もっと政府が広報・教育すべき。
- ・母親自体も考え方を変えていかないとこの国はつぶれてしまう。とても勉強になった。
- ・「男性の家事が男性を救う」目からウロコだった。
- ・40代未婚男子を連れてくればよかったと思った。「〇〇家作戦会議」を夫とチャレンジしたい。
- ・「ハゲ山」になってしまう原因や理由がわかってよかった。息子たちの子育て方法は間違っていたように思った。
- ・聴きにきてよかった。さすがだった。